

多職種連携のための臨床的因子に関する後方視的検討

目的

国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科受診患者さんの臨床背景を把握し、多職種連携を通してより良い患者ケアを行うための因子を探ることを目的としています。

研究の概要

平成 24 年度からのがん医療推進基本計画において、がん医療における取り組むべき施策として、「患者とその家族の抱える様々な負担や苦痛に対応し、安心かつ安全で質の高いがん医療を提供できるよう、各職種の専門性を活かし、医療従事者間の連携と補完を重視した多職種でのチーム医療を推進する」があげられています。

当院では通院治療センターにおいて看護師、薬剤師を中心とした外来化学療法における患者さんへの説明、副作用マネジメントを行ってきました。また乳腺・腫瘍内科では入院患者さんを対象に、主治医・担当医・看護師・薬剤師・緩和医療科・精神腫瘍科で構成されるチームカンファレンスを定期的に行うことで多職種によるチーム医療を推進してきました。現在、希少がんセンターの稼働とともに乳腺・腫瘍内科を受診する患者さんの数は増加の一方をたどっており、またその背景も複雑なものが多くなっています。

しかし、現状ではマンパワー不足などの理由で外来患者さんに多職種では関わっていない現状があり、必要なフォローができていないのではないかという疑問がありました。そこで、継続的なフォローアップが必要な患者さんを見つけ出し、多職種によるより良いケアを提供することを目的とし、当院、乳腺・腫瘍内科では外来多職種連携カンファレンスを 2015 年 8 月より開始しました。患者さんの臨床的背景を把握することにより、継続的なフォローアップが必要となる患者さんの臨床的因子を抽出することで、より円滑な、外来多職種連携によるケアに繋がることが期待できます。

研究の意義

本研究によって、継続的なフォローアップが必要となる患者さんの臨床的因子を抽出できる可能性があります。継続的にフォローアップが必要となる患者さんを効率的に多職種が把握できることで、円滑に多職種連携による必要なケアに繋がることが期待できます。

研究の対象

2014 年 1 月～2015 年 12 月の期間に、当院で乳腺・腫瘍内科を受診した患者さん

方法

データベースより乳腺・腫瘍内科を受診した患者さんを抽出し、がん種、病期、治療内容、有害事象、社会的背景、心理的状況などを診療記録から調査します。継続的な多職種介入を必要とする因子を、探索的に検討します。

個人情報保護に関する配慮

閲覧する診療記録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用で別途割り振られた研究番号を使って管理(匿名化)し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さんからのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

照会および研究への利用を拒否する場合の連絡先

研究責任者

清水 千佳子

国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科

連絡先：〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL：03-3542-2511

研究事務局

垣本 看子

国立がん研究センター中央病院 看護部

連絡先：〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL：03-3542-2511

文 靖子

国立がん研究センター中央病院 薬剤部

連絡先：〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL：03-3542-2511

下村 昭彦

国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科

連絡先：〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL：03-3542-2511